

学校法人東京農業大学の最新情報をお届けする

新・実学ジャーナル

No.179

New Practical Science Journal

2025 3月号
MARCH



教職員・卒業生・
在学生の活躍

TOKYO-
NODAI-
NEWS

NODAI TOPICS | 学校法人 東京農業大学の今

さらなる探究へ～未知への挑戦を続ける147の研究室～

Continuing the Challenges to the Unknown: 147 Research Laboratories
at Tokyo University of Agriculture

NEW REPORT | 研究

東京情報大学先端データ科学研究センターの 活動と今後の展望

～データサイエンスへの興味を高められるフィールドの拡大へ～

Ongoing Activities and Future Prospects of the Research Center
for Advanced Data Sciences
at Tokyo University of Information Sciences

NODAI TOPICS | 学校法人 東京農業大学の今

東京農業大学第一高等学校・中等部 完全中高一貫校としてスタート

The First High School and Junior High School of Tokyo NODAI :
Renewal as a Fully Integrated Secondary Education Institution

校長 幸田 諭昭 Tsuguaki Kouda Principal
東京農業大学第一高等学校・中等部

学校法人東京農業大学



さらなる探究へ～未知への挑戦を続ける147の研究室～

東京農業大学には、世田谷・厚木・北海道オホーツクの3キャンパスを拠点とする6学部23学科、147の研究室があります。“総合農学”を推進する東京農大における研究分野は、多様性に充ち、山の頂上から海底までのあらゆる全てと表現され、今や宇宙へも幅を広げています。各研究テーマは、SDGsの17の目標のいずれかに該当するとも言われており、時代の最先端の分野、壮大な時間をかけた歴史的な研究分野、そして地球規模での巨大なスケールの研究分野など、社会の課題解決に向けて不可欠なものです。

厚木キャンパスには、東京農大“一丁目”とも言われる農学部が、北海道オホーツクキャンパスには、北海道の雄大なロケーションを活かした研究が魅力的な生物産業学部が、そして世田谷キャンパスには応用生物科学部・生命科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部の4学部がそれぞれ設置されています。世田谷キャンパス内に2020年に竣工した研究棟“サイエンスポート”には、全4学部の研究室が集結し、同フロアに複数学部学科が共存し、学部学科の垣根を越えた研究のコラボレーションを推進できる構成となっています。

SDGsにおいては、「THEインパクトランキング2024」（日本版）では、「No.2～飢餓をゼロに～」で全国私大4位、「No.14～海の豊かさを守ろう～」で全国私大4位、「No.15～陸の豊かさを守ろう～」で全国私大4位など私立大学の中で総合9位となっています。

以下に各学部の研究室を事例として挙げて紹介します。

農学部

昆虫のバリア機能を応用した電子顕微鏡技術の開発

デザイン農学科
生物機能開発学研究室(高久 康春 教授)

昆虫が潜在的に備えているバリア機能を模倣・利用するという視点から、新しい電子顕微鏡技術(NanoSuit法)の開発に成功し、「生きたまま」の超微細構造の観察が可能になりました。

キャンパスがある厚木周辺は、自然が豊かで多様な生物の形態・機能を探索することができ、学生は自然の中から生物を採取し実験を行うこともあります。今後、生きた状態の様々な超微細構造をEM解析し、未知なる機能を解明することで、生物を規範とした製品開発の社会実装を目指します。

応用生物科学部

肥満抑制するブロッコリー成分を解明、さらなる価値創出へ

農芸化学科
栄養生化学研究室(井上 順 教授)

ブロッコリー由来成分であるスルフォラファンの抗肥満作用を見出し、より効果の高いブロッコリー品種を選別、29品種を花蕾・葉・花茎の3部位に分けて成分抽出しました。また実験によりスルフォラ

ファンが含まれていないにも関わらず、抑制能がある品種を見出しました。他品種にも機能性成分がある可能性があり、ブロッコリーの機能性研究への新たな価値創出につながります。学内での共同研究も活発であり、横のつながりによるさらなる進展も期待できます。

生命科学部

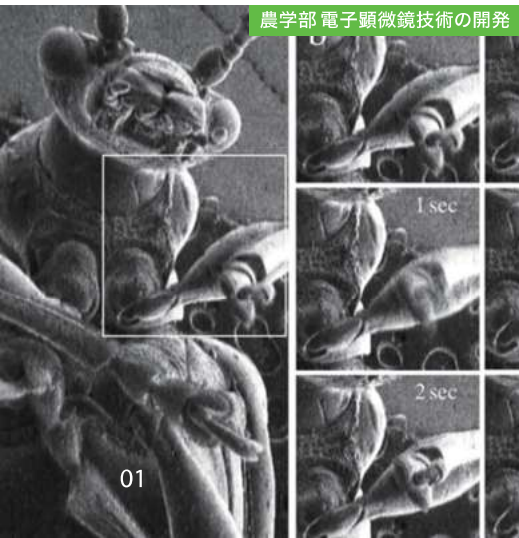
遺伝子工学により脳疾患の解決のための脳メカニズムを読み解く

バイオサイエンス学科
動物分子生物学研究室(中澤 敬信 教授)

脳機能と「栄養」や「生育環境」との関連性に注目した“農学的な”脳研究を推進しており、記憶、学習、感情、他者とのコミュニケーションといった脳の高次機能制御に関わる分子メカニズムの研究を行っています。

遺伝子工学により作製した遺伝子組換えマウスを用いた神経回路レベルや行動レベルの解析、iPS細胞技術を用いたヒト脳細胞の神経機能の解析などにより、脳の高次機能制御に関わる分子メカニズムとその破綻による脳疾患が引き起こされる機序を明らかにしました。これは社会的に急務である脳疾患の解決に資するものです。

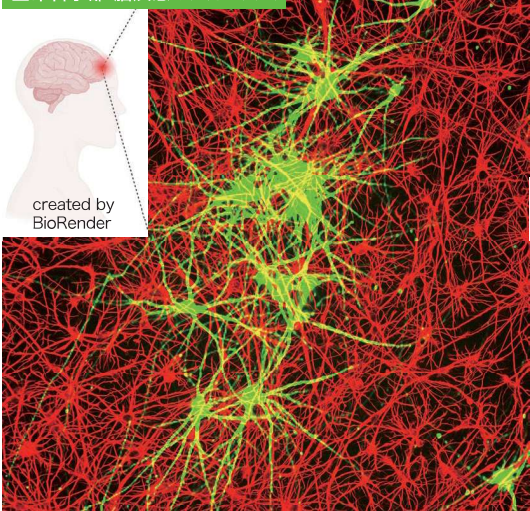
農学部 電子顕微鏡技術の開発



応用生物科学部 ブロッコリー成分を解明

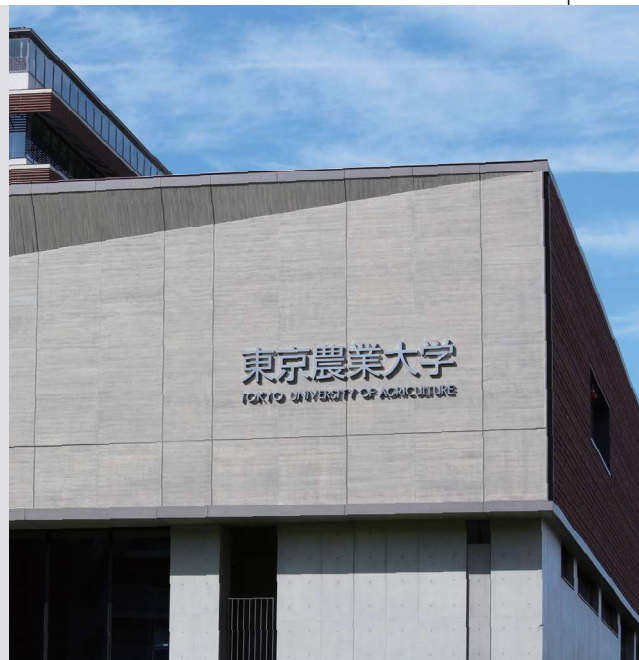


生命科学部 脳疾患のメカニズム



Continuing the Challenges to the Unknown: 147 Research Laboratories at Tokyo University of Agriculture

Tokyo University of Agriculture (Tokyo NODAI) is home to six faculties and 23 departments across its three campuses in Setagaya, Atsugi, and Okhotsk-Hokkaido, encompassing 147 research laboratories. The university promotes "Integrated Agricultural Science," and its research fields are characterized by remarkable diversity, addressing all aspects of life - from the peaks of mountains to the depths of the ocean, and now even extending into space. Each research theme aligns with one or more of the 17 Sustainable Development Goals (SDGs), representing essential efforts to tackle societal challenges in cutting-edge fields, traditional research areas, and large-scale studies with global implications. In the 'THE Impact Rankings 2023' (Japan edition), Tokyo NODAI has achieved impressive standings among Japanese private universities, ranking second for 'No. 2 - Zero Hunger,' fourth for 'No. 14 - Life Below Water,' and third for 'No. 15 - Life on Land.' There is great anticipation that the university's research outcomes will further contribute to the resolution of global challenges.



地域環境 科学部

研究フィールドは全世界、 森林は生物多様性の宝庫

森林総合科学科
森林生態学研究室(今井 伸夫 准教授)

植生の構造や生物多様性、炭素の貯留に関する研究に取り組んでいます。関東近郊や中部山岳のヒトが利用してきた森から原生的な森、熊本・阿蘇の広大な半自然草地、タイや沖縄のマングローブ林、ボルネオ島の巨大な熱帯雨林など、フィールドワークは多岐にわたります。森林や草地は、多様な生物を育むとともに、温暖化緩和に寄与する炭素の貯留機能がとても高いことが知られています。植物の根に共生する菌根菌が放出するCO₂量を測る新手法を考案しました。この成果は、森林の温暖化応答予測の高精度化につながります。

国際食料 情報学部

ヤムイモ研究による技術開発で アフリカの食糧難を救う

国際農業開発学科
熱帯作物学研究室(志和地 弘信 教授)

ヤムイモとはヤマノイモ科の食用作物で、西アフリカでは主食としても重要な作物であり、日本では長いもや自然薯が同種類です。栄養分の少ない土地や焼畑などの荒地でも良く生育できる要因について、優

良品種の育成中に窒素がほとんどない土でも育つ系統を発見し、それは窒素固定細菌と共生していることを世界で初めて発見しました。ヤムイモに共生する数々の植物生育促進細菌の特定もっており、今後の化学肥料や農薬に頼らない農業技術の進化に役立ちます。

生物 産業学部

資源豊富なオホーツク海から 地球まるごとを学ぶ

海洋水産学科
海洋生物学研究室(小林 万里 教授)

半閉鎖系の地形、季節風やアムール川からの淡水流入などによって海氷がつくられ、それが東樺太海流によって北海道沿岸まで接岸するオホーツク海の海洋環境は、世界的にみても貴重です。そのオホーツク海の高次捕食者である海生哺乳類が頂点となる生態系の解明に取り組んでいます。流氷後退後にはゴマフアザラシやクロナカアザラシ、春にはナガスクジラやクロツチクジラ、夏にはイシイルカ、秋にはカマイルカやツチクジラを頂点とする多様な生態系が形成されます。特に、春の生態系が特異的であり、流氷の増減によって個体数や分布に変化が起きていることも判明しました。ここで長期的に蓄積したデータは、今後のオホーツク海のみならず、海洋の保全に当たり貴重な情報源になると考えています。

地域環境科学部 森林は生物多様性の宝庫



Photo by
Kazuma Aoki

国際食料情報学部 ヤムイモ研究



生物産業学部 資源豊富な
オホーツク海から地球まるごとを学ぶ





東京情報大学先端データ科学研究センターの活動と今後の展望

～データサイエンスへの興味を高められるフィールドの拡大へ～

データサイエンスを活用し、様々な社会課題の解決や新たな価値の創造を目指す拠点として設置された本学先端データ科学研究センターは4年目を迎えました。本センターは、様々なデータを活用した先端的な研究活動の推進とそれを支援する計算基盤の提供だけでなく、総合情報学部1、2年次から専門的な研究に触れられる機会の提供などの教育活動にも注力してきました。ここでは、主に本センターの教育活動に焦点を当て、その試みと今後の展望について紹介します。



データサイエンス研究構想コンテスト参加者



受賞者記念の盾



データサイエンス研究構想コンテストポスタープレビュー

先端データ科学研究センターの教育・研究活動

情報通信技術(ICT)の急速な発展により、データから有益な情報や知見を得るデータサイエンスの活用や、高品質なシステムやサービスを実現するAIの活用が社会のなかに広がりを見せており、様々な社会課題の解決や新たな価値の創造が期待されています。本センターでは、社会への貢献を目指し、「情報セキュリティ」「機械学習」「生命情報」「数理情報」「情報基盤」分野の5つの研究ユニットを設置し、情報セキュリティ、AI、データサイエンス、バイオインフォマティクス、画像処理などの専門分野でデータを活用する研究者が、学部や大学院、企業とも連携して研究活動に取り組んでいます。また、教育面での取り組みにも力を入れており、総合情報学部1、2年次から専門的な研究に触れられる機会として「早期研究体験プログラム」を実施しています。

早期研究体験プログラム

学修意欲の高い学生に早期から専門的な研究に触れる機会を

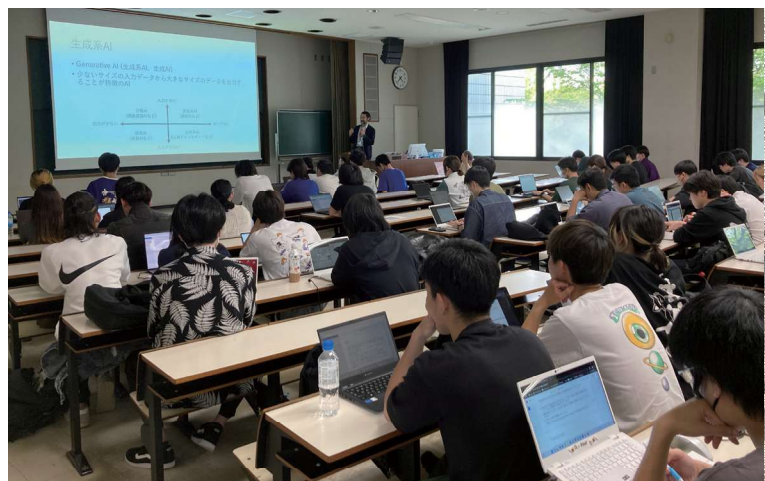
世界1位であった日本の国際競争力は30位台へと後退し、特にデジタル分野での弱さが指摘されており、データサイエンス・AIを高度に使いこなせる人材の育成が求められています。これに対して、本センターでは、総合情報学部の1、2年次の学生を対象に、興味のある研究ユニットに所属し、研究員の指導の下、データサイエンスやAIを活用した専門的な研究体験を通じて、データの扱い方を学び、データサイエンス研究の面白さを感じ取ってもらう「早期研究体験プログラ

ム」を展開し、令和6年度は7名の学生が参加しています。大学入学後、基礎から専門分野の知識を段階的に深めていく教育体系が一般的ですが、学修意欲の高い学生が早くから専門的な研究に触れ、将来への希望を明確にすることで、大学4年間の学びをさらに深めていくことが期待されます。

ここで、早期研究体験プログラムのなかでも「生命情報研究ユニット」に所属する学生と研究員の村上洋一教授による研究への取り組み事例を紹介します。

生命情報研究ユニットの取り組み

令和5年度に2年次前期の後半から参加した学生は「病気を患っ



毎年6月開催 全学生対象セミナー

Ongoing Activities and Future Prospects of the Research Center for Advanced Data Sciences at Tokyo University of Information Sciences

Aiming to contribute to society, the Research Center for Advanced Data Science (ADS) has established five research units in the fields of “Information Security,” “Machine Learning,” “Bioinformatics,” “Mathematical Informatics,” and “Information Infrastructure”. Researchers specializing in areas such as information security, AI, data science, bioinformatics, and image processing have been engaged in

research activities in collaboration with undergraduate and graduate schools, as well as companies. Additionally, ADS has been focusing on educational activities, implementing “Early Research Experience Program” that provides first and second years students in the Faculty of Informatics with opportunities for specialized research.



データサイエンス研究構想コンテストポスターセッション

ている人たちに希望を届けたい」という想いがあり、抗体医薬開発への貢献を目指し、免疫学の勉強と免疫細胞の一種であるB細胞が抗原と結合する部位(B細胞エピトープ)の予測に関する論文調査から始めることにしました。また、データ分析や解析に役立つプログラミング言語の習得にも励んでもらいました。学生本人の意欲はとても高く、免疫学の基礎知識やプログラミング言語の習得が計画よりも早く完了したため、2年次後期から実際にエピトープデータを用いて、その物理化学的な特徴分析を行い、その結果に基づきB細胞エピトープを予測する機械学習モデルの開発に取り組みました。そして現在、この経験を通じて、既存のエピトープデータベースに課題を見出し、エピトープの情報を整理するためのデータベースの開発にも励んでいます。

今後の展望

データサイエンスとは、データの背後にある本質を捉え、問題解決に必要な知見を引き出す学問分野です。その「本質を捉える力」を鍛える上で重要なことは、問題に対する表面的な情報に疑問を持って考えること、根本的な原因を探ることへの興味を深く持つことです。本センターでは、早期研究体験プログラム以外にも、研究員によるセミナーや、学際的な研究交流を活性化させるデータサイエンス研究構想コンテストを学内で開催するなど、その力を鍛える機会を設けてきました。

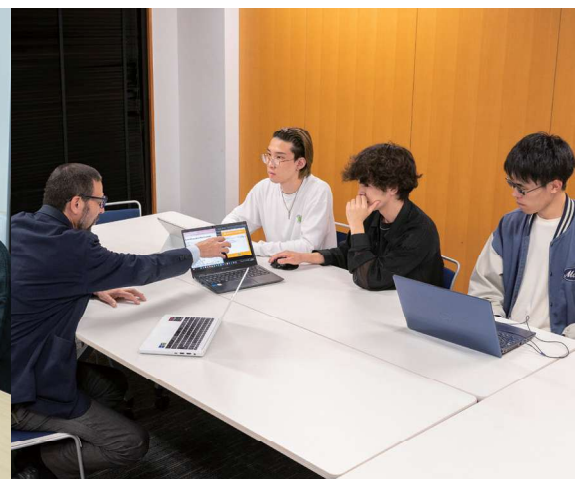
本学では2024年から、学生と教職員が共に学び、学部と大学院の共同体制による研究の活性化、産学官連携の推進、研究成果の社会実装を目指す「共創ラボ」という新たな研究拠点を設置しました。今後、本センターの枠を越えて、共創ラボや大学院との連携を強化し、共創ラボや大学院への早期研究体験プログラムの展開やセミナーを共同開催するなど、データサイエンス・AIへの興味を高められるフィールドを拡大していきたいと考えています。また、大学の枠を越えて、併設校や高大連携校にデータサイエンス研究構想コンテストへの参加を呼びかけるなど、教育活動を拡大していきたいと考えています。



メニーコアプロセッサ内蔵の計算機



早期研究体験プログラムでの学生との研究打ち合わせ





東京農業大学第一高等学校・中等部 完全中高一貫校としてスタート

The First High School and Junior High School of Tokyo NODAI : Renewal as a Fully Integrated Secondary Education Institution

6年間の教育計画のもとで系統的に教育理念「知耕実学」を通して、教育目標「夢の創造と実現」を目指します。6年間を2年間ごとに区切り、「想動力」「考動力」「突破力」の資質・能力を系統的に育成する計画をしています。そして、方向性としては特に3点、「リベラル・アーツ」「探究活動」「国際教育」です。高度情報化社会、グローバル社会では様々な事象が複雑に絡み合っており、多様な視点を持って取り組むことが大切です。

科学や文化、社会などの幅広い知識とともに、より深い専門知識を習得させることが必要と考えています。従って、すべての教科の勉強が重要で、中等部、義務教育段階ではすべての教科・科目を偏りなく勉強してもらいます。「探究活動」については6年間というメリットをいかして長いスパンでより深く進めていきます。

校長 **幸田 諭昭** Tsuguaki Kouda Principal

東京農業大学第一高等学校・中等部

The First High School and Junior High School, Tokyo University of Agriculture

〒156-0053 東京都世田谷区桜3丁目33番1号



令和7年度より併設型完全中高一貫校へ

農大一中は、平成17年に開設し、昨年度、創立20周年となりました。この4月より農大一中は東京農業大学稲花小学校の卒業生を迎え、同時に、高校からの募集を停止し、6年間による併設型の完全中高一貫校として、新たな一歩を踏み出しました。

東京農業大学は学祖の言葉に「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民に聞け」とあるように「実学教育」を推進しています。本校においても実学教育を継承し、本物に触れる「実学」を通して、「知」を耕す「知耕実学」を教育理念として教育活動の中心に据えています。本物に触れる実学体験を通して、五感で体感したことに仮説を立て、実証(実験)し、考え、判断して、行動・表現するプロセスには、思考の原点があります。このようなプロセスが、年間を通して、授業、学校行事、国際教育、一中一高ゼミ等、様々な場面で用意されている学校です。このような思考のプロセスを繰り返すことにより、思考力・創造力を伸ばし、教育目標「夢の創造と実現」を図ります。併設型完全中高一貫校になっても学校の教育活動の柱である教育理念「知耕実学」を大事にし、6年間による教育体制を整え、より充実した知耕実学を図ってまいります。

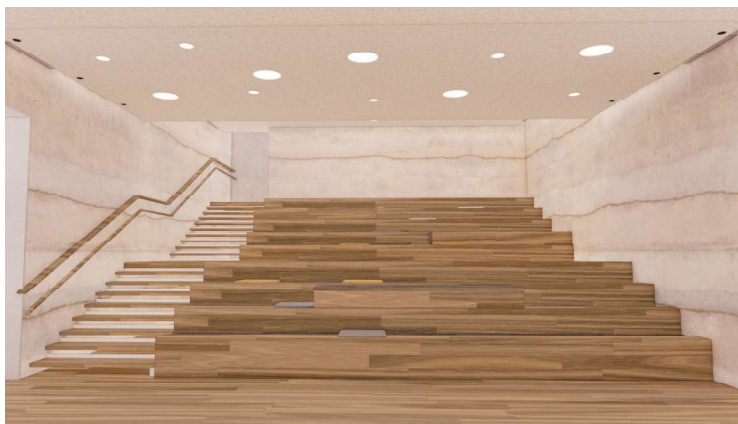
共創し、新たなステージへ

農大一高一中ではスローガン「共創し、新たなステージへ」を立ち上げています。現在、学校教育のキーワードの一つに「共」があります。「生徒同士で共に学ぶ」、「共に部活動する」、「先生と共に」、「卒業生と共に」、「歴史上の人物、先人と共に」、「社会、世界と共に」があります。その「共」と、教育目標「夢の創造と実現」にもあるクリエイトの「創」です。知耕実学を通して「共に」活動し、創造する姿勢を身に着けることが大切であります。授業をはじめ、学校行事、宿泊行事等では、「共創」することを意識して、自分たちで「共に」創り上げています。そして、併設型完全中高一貫校では高校2年生での修学旅行を中等部の時から生徒たちで共創する共創型修学旅行を取り入れます。このスローガンのもと、耕した「知」に「夢」という種を植えて、創造し、教育目標の「夢の創造と実現」に更に応えられるように、6年間による充実した体制を計画しています。

大講義室



地階 ホワイエ





The First High School and Junior High School of Tokyo NODAI has embarked on a new journey as a fully integrated secondary education institution. Under a comprehensive six-year educational plan, the school systematically aims to fulfill its educational philosophy of "Knowledge Cultivation and Practical Learning," striving towards the educational goal of "Creation and Realization of Dreams." The six years are divided into three stages of two years each, during which the school plans to systematically nurture the qualities and abilities of "Imagination," "Action-Oriented Thinking," and "Breakthrough Capability."

The school particularly emphasizes three key directions: "Liberal Arts," "Inquiry Activities," and "International Education." In today's highly information-oriented and global society, various phenomena are intricately interconnected, making it essential to approach challenges from diverse perspectives. It is important for students to acquire both broad knowledge in fields such as science, culture, and society, as well as deeper specialized knowledge. Therefore, the study of all subjects is deemed crucial, and during the junior high school and compulsory education phases, students will engage in a balanced study of all subjects without bias. Regarding "Inquiry Activities," the school intends to leverage the advantage of the six-year period to delve deeper over an extended timeframe.

今後の展望

6年間の教育計画のもとで系統的に教育理念「知耕実学」を通して、教育目標「夢の創造と実現」を目指します。6年間で2年間ごとに区切り、「想像力」「考動力」「突破力」の資質・能力を系統的に育成する計画をしています。そして、方向性としては特に3点、「リベラル・アーツ」「探究活動」「国際教育」です。高度情報化社会、グローバル社会では様々な事象が複雑に絡み合っており、多様な視点を持って取り組むことが大切です。科学や文化、社会などの幅広い知識とともに、より深い専門知識を習得させることが必要と考えています。従って、すべての教科の勉強が重要で、中等部、義務教育段階ではすべての教科・科目を偏りなく勉強してもらいます。「探究活動」については6年間というメリットをいかして長いスパンでより深く進めていきます。現在中学3年次で行っている「課題研究発表」などを延長させ深く広い学びに発展させていきます。「国際教育」についてもブラッシュアップをかけていきます。本校独自のプログラムも進行しながら、大学併設校のメリットも最大限いかしていきたいと思っています。東京農業大学にはグローバル連携センターがあり、協力校は32か国あり、世界の様々な大学と提携しています。そのメリットをいかしてまいります。

1階 図書室



新たな教育環境の整備

現在、2号館、3号館の建替工事による教育環境の整備を2期に分けて進めています。Ⅰ期目の工事はすでに終了し、新2号館は令和5年11月に完成しました。現在、Ⅱ期目の工事で新3号館の建替工事に着手しています。令和8年11月ごろ完成予定となっています。その環境整備の目的は教育理念「知耕実学」の更なる充実を図ることです。学びを深める探究空間・共創空間をコンセプトとし、コミュニケーションやコラボレーションを加速させ、一人ひとりの学びの深化につなげることです。すでに完成している新2号館は正に学びの探究空間・共創空間を実現しています。そして、現在建築中の新3号館には地下1階に学年集会や外部セミナー等で活用する大講義室、授業やゼミでの発表やクラブMTGで使用する階段教室（ホワイエ）、地上1階には図書室、2階には談話室、華道・茶道室、特別教室、3階には生物、化学、理科でサイエンスエリアラボ（実験室）・SCIENCE STREETが予定されています。知耕実学の更なる充実を目指して、今年も学校法人東京農業大学財務・施設部施設課と共に工事を進めて参ります。

3階 SCIENCE STREET



学校法人東京農業大学の様々なニュースをご紹介します！

TOKYO-NODAI-NEWS

教職員・卒業生・在学生の活躍

The Achievements of Current Faculty Members, Graduates and Students

東京農大教職員 Faculty and staff members of Tokyo NODAI

夏秋 啓子 名誉教授(現東京農業大学稲花小学校 校長)
「東南アジア国際農学会」Matsuda Award(松田賞)を受賞

東京農大卒業生 Tokyo NODAI Graduates

森林総合科学科 原田 慎也さん(2024年3月卒)
「第14回 関東森林学会大会」学生優秀論文賞を受賞

東京農大在学生 Current Tokyo NODAI Students

分子微生物学専攻 島村 直希さん(博士後期課程2年)
「第47回分子生物学会年会」MBSJ2024ポスター賞
(MBSJ-EMBO Poster Award)を受賞

分子微生物学専攻 Istiani Novitasariさん(博士後期課程1年)
「2025 15th International Conference on Boiscience,
Biochemistry and Bioinformatics(ICBBB 2025)」
Best Presentation Awardを受賞

農芸化学専攻 齋藤 温子さん(博士前期課程2年)
「日本土壌肥科学会2024年度大会」若手ポスター発表優秀賞を受賞

食品安全健康学専攻 早藤 愛奈さん(博士前期課程2年)、
食品栄養学専攻 植田 優一さん(博士前期課程1年)
「第33回日本健康医学学会総会」湖歩会藤原賞を受賞

分子生命化学専攻 鶴賀 茉友さん(博士前期課程2年)、
分子生命化学専攻 財前 太毅さん(博士前期課程2年)、
食品安全健康学専攻 藤井 彩佳さん(博士前期課程1年)
「高分子学会第62回高分子と水に関する討論会」
学生奨励発表優秀賞を受賞

分子生命化学専攻 熊谷 美海さん(博士前期課程1年)
日本農薬学会・農薬デザイン研究会主催
「第38回農薬デザイン研究会」優秀ポスター賞を受賞

造園学専攻 若林 英範さん、小清水 亮太さん(博士前期課程1年)
スポーツ庁「スポーツ・健康まちづくりデザイン」学生コンペティ
ション2024」審査員賞(デザイン部門)を受賞

食香粧化学科中島 千咲さん、増田 一花さん(3年:食の化学研究室)
「2024アグリビジネス創出フェア in Hokkaido」優秀賞を受賞

「2024年度日本造園学会関東支部大会」ポスター発表部門、
渡辺 大貴さん(造園科学科 4年)最優秀研究発表賞、
森 一馬さん(造園科学科 4年)、片方 聡太さん(造園科学科 4年)
優秀研究発表賞を受賞

農友会 ホッケー部
「2024年度関東学生ホッケー秋季リーグ」男子1部準優勝、
女子1部4位入賞

全学応援団 チアリーダー部 FIGHTING RADISH(ファイティ
ング・ラディッシュ)が国際チアリーディング連盟(ICU)主催
の世界大会「2025 ICU UNIVERSITY WORLD CUP
CHEERLEADING CHAMPIONSHIPS」に出場
「ALL GIRL GAME DAY」、「NATIONS RANKINGS GAME DAY」
2位入賞

農友会 カーリング部の中原 太亜さん(海洋水産学科1年)
「世界ジュニアBカーリング選手権大会2024」
男子日本代表チームとして出場、3位入賞

農友会 社交ダンス研究部の前田 怜人さん(アグリビジネス学科 4年)
「第70回全日本学生競技ダンス選手権大会」
シニア・スタンダード タンゴの部準優勝

農友会 空手部の学生6名
「20th WKI International Karate Championship 2024」
3位以内入賞

農友会 ボクシング部の山下 学人さん(国際農業開発学科 2年)
男子バンタム級準優勝、上村 和己さん(森林総合科学科 1年)
ミニマム級、佐々木 桐馬さん(森林総合科学科 1年)バンタム
級、八木 大河さん(食料環境経済学科 3年)ウェルター級、川
村 萌斗さん(国際農業開発学科 1年)ライトミドル級3位入賞

東京情大在学生 Current TUIS Students

鈴木 雄斗さん(総合情報学科3年)参加チーム「人海戦術コード
ブルー」(一社)情報処理学会 コンピュータセキュリティ研究会
MWS組織委員会主催「MWS Cup2024」ハッカソン部門2位、
4年生と2年生チーム「人海戦術_backdoor」総合3位

東京農大第一高等学校在学生 Current students of the First high school of Tokyo NODAI

中田 仁菜さん(3年生)「第9回全日本高校生自馬選手権大会」、
馬場馬術競技第3課目A全国選手権6位入賞

中田 仁菜さん(3年生)「第60回関東高等学校自馬競技大会」
第2競技馬場馬術3課目A2022、第5競技バーティカル70
優勝、池本 かれんさん(3年生)第1競技馬場馬術2課目B 2022
準優勝、越賀 桜子さん(3年生)同種目3位入賞

東京農大第二高等学校在学生 Current students of the Second high school of Tokyo NODAI

理科部生物班の2グループ
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構主催
「QST高崎サイエンスフェスタ2024」優秀賞

吹奏楽部「第8回カラーガード・マーチングパーカッション全
国大会」カラーガード高等学校の部金賞を受賞

ソフトテニス部「令和6年度 群馬県高等学校新人ソフトテニス
大会兼 関東高等学校選抜ソフトテニス大会」男子女子ともに
第2位

吹奏楽部
日本マーチングバンド協会主催
「第52回マーチングバンド全国大会高等学校の部 大編成」金賞
を受賞(第2位)

陸上競技部(中長距離)
第77回関東高等学校駅伝競走大会 第6位入賞、男子第42回
群馬県高等学校新人駅伝競走大会第2位、第30回全国都道府
県対抗男子駅伝群馬県代表として、2名出場、群馬県13位

空手部
全国高校選抜大会「夢きぼう杯」に選出

東京農大第二高等学校中等部在学生 Students of the Second High School and Junior High School of Tokyo NODAI

令和6年度第19回筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽」
学校奨励賞、本校生徒の作品が「科学の芽」賞として表彰

新井 優太さん、堀田 怜那さん、片山 凜珠さん(中等部2年)
群馬大学共同教育学部附属中学校との合同チームで出場、
「科学の甲子園ジュニア全国大会」優良賞および
工作デザイン賞スカパーJSAT賞を受賞

第6回Minecraftカップの北関東信州ブロック予選、
学校賞(特別賞)、群馬県教育長賞を受賞

中等部空手道部「令和6年度第19回群馬県中学生空手道選
抜大会兼全国中学生空手道選抜大会予選」形競技、組手競技
富樫 和万さん(中等部2年)男子個人形敢闘賞(ベスト8)、
女子個人組手大村 夢乃さん(中等部2年)敢闘賞(ベスト8)

山口 杏さん(中等部1年)「第76回高崎市民スポーツ大会スケー
ト中学女子部」優勝